

## テクノロジーが機能を代行し インターネットアクセシビリティを向上

現在のようにインターネットが普及し、仕事のみならず、さまざまな生活場面でインターネットから情報を引き出せることが求められるようになると、身体の障害が原因でコンピュータへのアクセシビリティが制限されることは社会参加に対する大きな阻害要因の1つになっている。さらにいえば、外出することがなかなか困難な障害者にとってこそ、家に居ながらにしてさまざまな情報に触れることができるパソコン通信やインターネットの果たす役割は大きい。

このようなニーズの高まりを背景に、障害者のコンピュータ利用を補助するハードウェア、ソフトウェアの数は、近年増加の一途をたどっている。たとえば、わが国で入手可能な障害者の生活を援助する電子機器を紹介した「こころリソースブック」の1999-2000年版に収録された機器は、約700を数えている。さらにこの中の150余は今年度版で追加されたものである。

### アクセシビリティ指針の効果

障害者のアクセシビリティを高めようという声に呼応して、1995年には通産省から「障害者等情報処理機器アクセシビリティ指針」が示された。この指針は技術の発展に伴い適宜改定作業が行われて

おり、2000年春に改訂される。さらに1999年には郵政省から、「電気通信設備のアクセシビリティ指針」が示された。これらは通常の情報機器やインターネットのコンテンツに、障害者が健常者と同等にアクセスできるようにするためのガイドラインである。障害者の利用しやすい製品の開発、販売に拍車がかかってきた背景には、このようなガイドラインの策定も無縁ではない。そのため、軽度の障害であれば、特別なハードウェアやソフトウェアを使わなくても、OSに付随している機能を利用することで十分に操作することが可能になっている。

### キーボードナビゲーション向上

従来、マウスを多用しなければならないブラウザの操作は、マウスでのポインティングが不得手な肢体不自由者にとって、かなりのストレスを感じるものであった。しかし、Internet Explorerや Netscape Navigatorの最新版では、マウスで行う操作をキーボードで代替する「キーボードナビゲーション」機能が充実している。たとえば、タブキーを押すことにより、リンク指定箇所の間を移動することができ、そこでエンターキーを押すことによりリンク先に飛ぶことができる。こういうブラウザの使い勝手のよさは、肢体不自由者のインターネット利用を促進している。

### スクリーンリーダーで音声変換

ディスプレイ上の文字やアイコンが全く見えない視覚障害者は、「スクリーンリーダー」と呼ばれるディスプレイ上の情報を音声でフィードバックするソフトウェアでコンピュータを操作する機会が多い。このソフトに対応しているブラウザを使うとインターネットのウェブページの内容

を読み上げてくれる。また、視覚障害者にとってもマウス操作は困難であり、既述のキーボードナビゲーションとの組み合わせがその操作には不可欠となっている。さらに、コンテンツそのもののアクセシビリティについても配慮されなければならない。たとえば、画像などはその内容を音声で知ることができないので、Alt属性を使った文字説明を加える必要があるだろう。

弱視の場合、画面の配色や文字の大きさを変えることにより、ページが見やすくなるが、最近のブラウザの中にはユーザー側でスタイルシートを指定すると、どのページもそこで指定した配色や文字の大きさで表示される機能があり、一度指定するといつもその人にあった環境でページを見ることができる。

### Eメールに聴覚障害者のニーズ

最後に障害者のために開発されたものではない技術が障害者のニーズに適合した例として、携帯電話やPHSを使ってのEメール送信技術を紹介する。従来、遠くにいる聴覚障害者への情報伝達手段はファックスしかなく、一度外出してしまうと、彼らに連絡を取る手段がないのが実状であった。しかし、携帯電話などで文字情報を送れるようになり、聴覚障害者の連絡手段として非常に重宝なものとして普及した。現在、インターネットのウェブページなどにも携帯端末からアクセスできるようになっていることは、聴覚障害者の生活を大きく変えていくに違いない。

(松木完之 こころWeb)



図1 障害者のパソコン利用やコミュニケーションを支援する「こころWeb」のホームページ

<http://www.jeida.or.jp/document/kokoroweb/>



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)